

問6) 患者必携(「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」「地域の療養情報」)をどの程度利用しましたか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	ほぼ毎日	数回	1度だけ	1度も開いていない
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4
c)地域の療養情報	1	2	3	4

問7) この冊子は役立ちましたか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても役に立った	まあ役に立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c)地域の療養情報	1	2	3	4	5

問8) それぞれに書かれている内容は詳しくすぎましたか、それとも簡単すぎましたか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても詳しくすぎる	やや詳しくすぎる	ちょうどよい	やや簡単すぎる	とても簡単すぎる
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c)地域の療養情報	1	2	3	4	5

問9) 療養生活を送る上で、この冊子があって良かったと感じますか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても良かった	やや良かった	どちらでもない	あまり良くなかった	良くなかった
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
良かった、良くなかったと感じた点を具体的にお書きください					
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
良かった、良くなかったと感じた点を具体的にお書きください					
c)地域の療養情報	1	2	3	4	5
良かった、良くなかったと感じた点を具体的にお書きください					



次ページへ続きます

問10) —1 この冊子を受けとってから現在までの期間で、療養生活の中で不安に感じたことはどんなことがありますか。よろしければご記入ください。

問10) —2 この冊子は、それら不安の軽減に役立ちましたか。(○印は1つ)

1. とても役だった
2. すこし役だった
3. どちらでもない
4. あまり役立たなかった
5. まったく役立たなかった

問10) —3 この冊子があることによって、不安の軽減に役立った点、役立たなかった点を、具体的にお書きください。

問11) 次ページには、「患者必携 がんになったら手にとるガイド」の目次が示してあります。この冊子を手にしてからの間で、以下のことについてお答えください。

①「活用した」ところすべてに「○」をしてください。また、その中で「最も活用した」ところに1つだけ◎をしてください。

②「不安の解消に役立った」ところすべてに「○」をしてください。また、その中で「最も不安の解消に役立った」ところに1つだけ◎をしてください。

③「まったく使わなかった」ところすべてに○をつけてください。

少し細かいですが、できるだけゆっくりとお時間をとってお書きくだされば幸いです。

記入例

① 活用 した	② 不安の 解消に 役立っ た	③ まっ たく使 わな かつ た	項目名
			2 社会とのつながりを保つ
○			3 治療法を考える
◎			4 治療までに準備しておきたいこと

① 活用  
活用したところすべてに○をつけてください。  
また、最も活用したところ1つに◎をつけてください。

① 活用 した	② 不安の 解消に 役立っ た	③ まっ たく使 わな かつ た	項目名
			② 不安の解消 不安の解消に役立ったところすべてに○をつけてください。 また、最も不安の解消に役だったところ1つに◎をつけてください。
	○		
	◎		
		○	11 補完代替療法を考える

③ 使わなかった  
まったく使わなかったところすべてに○をつけてください。



次ページへ続きます

以下の表に書き入れてください

① 活用 した	② 不安の 解消に 役立っ た	③ まった く使わ なかつ た	項目名
			患者必携ガイドマップ
			第1部 がんと言われたとき
			1 診断の結果を上手に受け止めるには
			2 がんと診断されたらまず行うこと
			3 がんと言われたあなたの心に起こること
			4 情報を集めましょう
			5 相談支援センターにご相談ください
			第2部 がんに向き合う
			第1章 自分らしい向き合い方を考える
			1 自分らしい向き合い方とは
			2 社会とのつながりを保つ
			3 治療法を考える
			4 治療までに準備しておきたいこと
			5 がんに関わる“チーム医療”を知ろう
			6 医療者との関係をつくるには
			7 セカンドオピニオンを活用する
			8 患者同士の支え合いの場を利用しよう
			9 療養生活を支える仕組みを知る
			10 限られた時間を自分らしく生きる
			第2章 経済的負担と支援について
			1 治療にかかる費用について
			2 公的助成・支援の仕組みを活用する
			3 民間保険に加入しているときには

① 活用 した	② 不安の 解消に 役立っ た	③ まった く使わ なかつ た	項目名
			第3部 がんを知る
			第1章 がんのことで知っておくこと
			1 がんの発生と進行の仕組みを知る
			2 がんの検査と診断のを知る
			3 がんの病期のことを知る
			4 手術のを知る
			5 薬物療法(抗がん剤治療)のを知る
			6 放射線治療のを知る
			7 臨床試験のを知る
			8 緩和ケアについて理解する
			9 痛みを我慢しない
			10 がんの再発や転移のを知る
			11 補完代替療法を考える
			第2章 療養生活のためのヒント
			1 体調を整えるには
			2 食事と栄養のヒント
			3 排泄とトイレのヒント
			4 休養と睡眠のヒント
			5 気分転換とストレス対処法
			第3章 用語の解説
			それぞれのがんの療養情報

問1 2) 現在、患者必携に組み合わせて活用する、身近な相談窓口や医療機関の情報を取りまとめた「〇〇県版 地域の療養情報」が試作されています。

「地域の療養情報」に取り入れてほしい情報やテーマ、活用に向けたご意見などありましたら、こちらにお書きください。

問1 3) 患者必携についてご意見・要望がありましたらご自由にお書きください。

●アンケートは以上です、ご協力ありがとうございました。

## 医療者の皆さまへ

### 「患者必携」

### アンケートのお願い



「患者必携」は患者さん・ご家族が がんの診療上必要な情報を収集し、整理し、あるいは わからないことをメモ・質問していただく目的でお渡したところです。その後、毎月定期的に担当医が診察・面談されたり、看護師・相談員が面接や電話相談をされた事柄について、今回お尋ねいたします。

この調査は、実際に、全国の患者さんやご家族にとって、信頼でき、わかりやすい情報が届くこと、それによって療養生活の支えとなることを目指して、医療者の方々を含めた利用者の皆さまのご意見をお伺いするものです。この結果を、これからのよりよいがん情報の作成や普及につなげていくための資料として活用させていただきます。ご協力よろしくお願ひいたします。

#### 【このアンケート調査の目的】

患者さんにとって必要な情報を取りまとめた患者必携について、どのように届け、活用していくことが望ましいか、具体的な実行計画については現在検討段階です。患者に向けた情報提供を効果的に行うために、内容の評価とともに、今後の普及における課題を抽出し、地域や医療機関における普及計画の策定に向けた分析、検討を行うことを目的としています。

問1) あなたの職種を教えてください。(○印は1つ)

1. 医師
2. 看護師 (病棟)
3. 看護師 (外来)
4. 看護師 (相談支援センター)
5. ソーシャルワーカー (相談支援センター)
6. ソーシャルワーカー (相談支援センター以外)
7. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_ )

問2) あなたの専門分野を教えてください。(例: 呼吸器外科、ストマケア、... など)

問3) 医療従事者としての経験年数をお書きください。

( \_\_\_\_\_ ) 年目



問4) これらの冊子（「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」「地域の療養情報」）は患者さんにとって役立ったと思いますか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。（各々○印は1つ）

	とても役に立った	まあ役に立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c)地域の療養情報	1	2	3	4	5

問5) それぞれに書かれている内容は詳しくすぎますか、それとも簡単すぎますか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。（各々○印は1つ）

	とても詳しくすぎる	やや詳しくすぎる	ちょうどよい	やや簡単すぎる	とても簡単すぎる
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c)地域の療養情報	1	2	3	4	5

問6) これらの冊子（「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」「地域の療養情報」）が患者さんの手に届くことは医療者にとって役立つと思われましたか。a)～c)のそれぞれについてお聞かせください。（各々○印は1つ）

	とても役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない
a)がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b)わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c)地域の療養情報	1	2	3	4	5

問7) これらの冊子に加えた方がよいと思う情報がありましたら、お書きください。

問8) これらの冊子の配布について、あなたご自身の役割はどれでしたか。(○印はいくつでも)

1. 患者さんに手渡した
2. 患者さんに説明した
3. 患者さんの質問に対応した
4. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

問9) 患者さんにあなたもしくは他のスタッフが手渡した時期はいつでしたか。(○印は1つ)

1. 最初の外来受診のとき
2. 2~3度目の外来受診のとき
3. 入院してから
4. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
5. わからない

問10) これらの冊子を渡したり、活用してみているかがでしたか。よかったことや大変だったこと、また今後の活用についてもお聞かせください。(○印はいくつでも)

■医療者として

1. 時間がとられて大変だった
2. 多くの情報を短時間で伝えることができた
3. より深い説明ができるようになった

■患者さんの様子

4. 患者さんの自分の病状に対する理解が深まった
5. 患者さんや家族からの質問が増えた
6. コミュニケーションのきっかけになった
7. 患者さんが相談支援センターを利用するきっかけになった

■その他

8. 渡しただけで特に活用していない

-----  
ご意見等ありましたらご自由にお書きください

問11) 渡した時期は適切だったと思いますか。(○印は1つ)

1. 早すぎた(もっと後の方がよい)
2. ちょうどよかった
3. 遅すぎた(もっと早い方がよい)
4. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

問12) 次ページには、「患者必携 がんになったら手にとるガイド」の目次が示してあります。

この中から、患者必携の配布や説明に関わった患者さんを総合して、以下のことについてお答えください。

①この冊子を手にしてから、「患者さんが活用した」と思うところすべてに○をしてください。また、「患者さんが最も活用した」と思うところに1つだけ◎をしてください。

②この冊子を手にしてから、「患者さんの不安の解消に役立った」と思うところすべてに○をしてください。また、「最も患者さんの不安の解消に役立った」と思うところに1つだけ◎をしてください。

③現場での業務を通じて、「医療者としてあなたが活用した」ところすべてに○、そのうち「最も医療者としてあなたが活用した」ところに1つだけ◎をしてください。(活用例: 患者さんの説明に用いた、コピーして渡した、内容についての問い合わせに対応した)

少し細かいですが、できるだけゆっくりとお時間をとってお書きくだされば幸いです。

記入例

患者さんが		医療者として	項目名
① 活用したと思う	② 不安の解消に役立ったと思う	③ 活用した	
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		2 社会とのつながりを保つ
<input checked="" type="radio"/>			3 治療法を考える
	<input type="radio"/>		4 治療までに準備しておきたいこと

**① 活用（患者さんが）**  
患者さんが活用したと思うところすべてに○をつけてください。また、最も活用したと思うところ1つに◎をつけてください。

患者さんが		医療者として	項目名
① 活用したと思う	② 不安の解消に役立ったと思う	③ 活用した	
		<input checked="" type="radio"/>	9 痛みを我慢しない
		<input type="radio"/>	10 がんの再発や転移のことを知る
			補完代替療法を考える

**② 不安の解消**  
患者さんの不安の解消に役立ったと思うところすべてに○をつけてください。また、最も不安の解消に役立ったと思うところ1つに◎をつけてください。

**③ 活用（医療者として）**  
医療者としてあなたが活用したところすべてに○をつけてください。また、最も医療者としてあなたが活用したところ1つに◎をつけてください。

以下の表に書き入れてください

患者さんが		医療者として	項目名
① 活用したと思う	② 不安の解消に役立ったと思う	③ 活用した	
			患者必携ガイドマップ
			第1部 がんと言われたとき
			1 診断の結果を上手に受け止めるには
			2 がんと言われたらまず行うこと
			3 がんと言われたあなたの心に起こること
			4 情報を集めましょう
			5 相談支援センターにご相談ください
			第2部 がんに向き合う
			第1章 自分らしい向き合い方を考える
			1 自分らしい向き合い方とは
			2 社会とのつながりを保つ
			3 治療法を考える
			4 治療までに準備しておきたいこと
			5 がんに関わる“チーム医療”を知ろう
			6 医療者との関係をつくるには
			7 セカンドオピニオンを活用する
			8 患者同士の支え合いの場を利用しよう
			9 療養生活を支える仕組みを知る
			10 限られた時間を自分らしく生きる
			第2章 経済的負担と支援について
			1 治療にかかる費用について
			2 公的助成・支援の仕組みを活用する
			3 民間保険に加入しているときには

患者さんが		医療者として	項目名
① 活用したと思う	② 不安の解消に役立ったと思う	③ 活用した	
			第3部 がんを知る
			第1章 がんのことで知っておくこと
			1 がんの発生と進行の仕組みを知る
			2 がんの検査と診断のことを知る
			3 がんの病期のことを知る
			4 手術のことを知る
			5 薬物療法(抗がん剤治療)のことを知る
			6 放射線治療のことを知る
			7 臨床試験のことを知る
			8 緩和ケアについて理解する
			9 痛みを我慢しない
			10 がんの再発や転移のことを知る
			11 補完代替療法を考える
			第2章 療養生活のためのヒント
			1 体調を整えるには
			2 食事と栄養のヒント
			3 排泄とトイレのヒント
			4 休養と睡眠のヒント
			5 気分転換とストレス対処法
			第3章 用語の解説
			それぞれのがんの療養情報

問13) 現在、患者必携に組み合わせて活用する、身近な相談窓口や医療機関の情報を取りまとめた「都道府県版 地域の療養情報」が試作されています。

「地域の療養情報」に取り入れてほしい情報やテーマ、活用に向けたご意見などありましたら、こちらにお書きください。

問14) 当アンケートの記載を踏まえて、研究班ではインタビューによるヒアリング調査を予定しております。その際にご協力いただくことは可能でしょうか。(30分から1時間程度の面談を予定しています。「1. 協力可能」の方には、後日当研究班より電話あるいはメールにて、詳細についてお打ち合わせをさせていただく場合がありますので、よろしくごお願い申し上げます。)

1. 協力可能→連絡先をお書きください

所属 ( )

部署・診療科 ( )

氏名 ( )

連絡先電話番号 ( )

メールアドレス ( )

2. 協力できない

3. その他 (具体的に: )

アンケートは以上です、ご協力ありがとうございました。

このアンケートに関する院内問い合わせ先



研究実施機関:

厚生労働科学研究費補助金

(第3次対がん戦略研究事業)

「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」  
および、

(がん臨床研究事業)

「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」



# 分 担 研 究 報 告

## 分担研究報告（朝戸）

厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業  
平成23年度 分担研究報告書

地域住民アンケートから見た患者必携「がんになったら手にとるガイド」の評価ならびに  
広報に関する検討

分担研究者朝戸裕二 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 呼吸器外科部長

がん罹患率の上昇により、多くの国民ががんと無関係ではいられない状況にあり、がん患者・家族だけでなく、がん患者必携は広く国民に広報されてきた。がん患者必携が一般国民にどの程度認知され、どの様に評価されるのかを知る目的で一般地域住民に対するアンケート調査を行った。アンケート結果は患者必携の内容については高い評価を得ており、近親者ががん患者がいるかいないかに群別した解析では、いない群における期待度が高いことが判明した。しかし、マスメディアを介した広報を行っていたにもかかわらず、本冊子について知っていた者はわずかに10%であった。がん患者必携はがん患者・家族のみならず、一般住民にとっても有用な冊子であることが今回のアンケート結果から判明した。近親者ががん患者がいない群で評価が高かったことは、国民はがんが身近な病気であり、その情報を得たいと考えていることの反映であると思われた。しかし、その認知度は依然低く、どの様に本冊子の存在を広報していくかが今後の課題である。

### A. 研究目的

患者必携「がんになったら手にとるガイド」はがん患者・家族から高い評価を得ていたが、その周知に関しては不十分な状況である。がん罹患率が増え、国民の2人に1人ががん患者になる現在においてはがんに罹患する以前にがん情報を得ておくことも重要と思われる。がん患者・家族を対象に作成された冊子ではあるが、一般地域住民において本冊子がどの様に評価されるのかを調査した。また、患者必携についてはテレビ・新聞・雑誌・インターネットを介した広報、地域広報誌や講演会を利用した広報が行われてきたが、一般住民にどの程度周知されたかについて調べるとともに一般住民に広報する上で効果的な方法がないか検討した。

### B. 研究方法

研究者本人が居住する町内会の総会においてアンケート調査の許可を得た後に、町内会組織に参加している全世帯にアンケートへの参加の諾否を伺い、承諾した世帯に患者必携「がんになったら手にとるガイド」・「療養手帳」とアンケート用紙（別資料）を配付した。今回、アンケートを行った地域は茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンターに隣接する町内会である。アンケートの配付から回収までには1ヶ月程度の間隔を於いた。アンケートの内容は回答者の属性、周知状況、必携の評価であり、冊子・アンケートの配付・回収は各班長さんに行ってもらった。

また、全体の評価とは別に、身内にがん患者さんいる場合といない場合の属性別に評価に差があったかについても検討した。

(倫理面への配慮)

個人名をあげないことを知らせて上でアンケート調査を行った。

### C. 研究結果

町内会には150世帯程度が属しており、91世帯からアンケート調査への受諾を得て冊子・アンケートを配付した。91世帯中89世帯からアンケートを回収でき、回収率は98%であった。

回答者は男性37名、女性52名、年齢分布では70歳代が最も多かった(図1)。自分自身あるいは家族でがんと関わりあるとの回答が67%で、友人等なんらかの関係でがん患者との関わりを持っていたとの回答は90%に達した。

(図2)。健康に関する情報収集源としてはテレビ・新聞が多く、それら情報源に対する信頼度も高い傾向にあった(図3・4)。インターネット環境に関しては高齢になるにつれて活用度が低下していた(図5)。

患者必携の周知状況では知っていたのは10%のみであった。患者必携に関する情報入手元は重複回答を含めて病院のポスター4名、インターネット3名、マスコミ報道2名、知人からの口コミ2名、地域広報誌1名、講演会1名、その他2名であった。病気の不安・疑問解消に必要なものとしては医療者との面談、患者の体験談や他の患者さんとの対話等、直接コミュニケーションを行うとの選択が多かった(図6)。

患者必携を使用したいかという設問に対してはガイド・手帳共に使用したいという回答が約80%であった(図7)。ガイドの内容に関しては詳しすぎる17%、ちょうどよい70%、簡単すぎる10%であった(図8)。ガイドの総合評価はとても役に立つ61%、まあ役に立つ33%であり高評価であった(図9)。がん患者としてガイドを読んだ1〜2ヶ月後に活用していると思われる項目で支持が高かった項目は診断と手術、放射線、薬物療法等の治療に関

する項目と費用面に関する項目であった(図10)。不安解消に役立つと思われた項目で支持が多かったのはがんとおこる心の変化などの心理面の項目と医療者との関係構築や患者同士の支え合いの場に関する項目であった(図11)。まったく使わないだろうとして上がった項目の割合は低いものであったが相談センターに関する項目が16%とその中では高い割合であった(図12)。

自由意見には「がんになりやすい体質があるか?」「がん予防のための食生活を知りたい」などのがん発生や予防に関する記載があった。また、地域医療機関によるがん情報の発信や市民公開講座の要請、医学知識を学校教育にも取り入れてほしい等の提言もあった。

次に自分自身あるいは家族でがんと関わりある回答者(有り群)とそれ以外の回答者(無し群)に分けた検討結果を提示する。参考としている情報では有り群で新聞やテレビの割合が増え、その情報に対する信頼度の高かった(図13・14)。不安解消に医師の説明以外で大切なものとして有り群ではよい多くの情報、じっくり考える時間、パンフレットや本等の資料、テレビの医学情報番組の割合が無し群より高かった。ガイドを使用したいかという設問に対して無し群の方がぜひ使いたいと答えた割合が高かった(図15)。内容に関する評価では無し群でちょうどよいと答えた割合が高く、有り群でやや簡単すぎると回答した割合が高いという結果であった(図16)。役にたつかとの設問に対してはとても役にたつ回答した割合が無し群で高かった(図17)。がん患者として1〜2ヶ月後に活用している項目では無し群では心の変化、治療法、医療者との関係構築に関する項目を活用しているという回答割合が高くなり、有り群では情報収集、相談支援センター療養生活に関する項目で回答割合が無し群よりも高かった(図18)。不安の

解消に役立つと思われる項目に関してはほぼすべての項目で無し群の方が役立つと回答した割合が高いという結果であった（図19）。全く使わないと思われる項目に関しては有り群で相談支援センター、社会とのつながり、患者同士の支え合いの場、臨床試験に関する項目が無し群に比較して割合が高かった（図20）。

#### D. 考察

一般住民を対象にしたアンケート調査であったが自身でがんを経験している割合が12.5%、家族での経験を加えると67%、さらに友人等まで加えると90%はがんとの関わり合いがあるという状況であった。国民の2人に1人ががんに罹患する時代を反映した結果であり、このことはがんに関する情報をがん患者だけに発信するのではなく、広く国民に広報すべきことを表していると思われる。患者必携の広報に関しては、テレビ・新聞等のマスメディア、インターネット、雑誌、地域広報誌、各種講演会等を通じて行われてきたが、このアンケートでは患者必携について知っていた者はわずかに10%であった。本冊子についての情報を得た方法として最も多かったのは病院のポスターであったが、これは今回のアンケートの対象が病院に隣接する地区であったことによる影響と思われる。病院内のポスター掲示が有効であるならば、がん診療拠点病院だけでなく、連携医療機関へ依頼して各医療機関にポスター掲示を行ってもらうことは有用と思われた。既に冊子「がん患者必携」は各拠点病院に相当数配付されており、各拠点病院から連携医療機関へ配付も行われていると。各地域医療機関の待合室に冊子を置くだけでなく、ポスター掲示を行うことで患者さんの目に触れる機会が増えることが期待できる。アンケート結果から見ると医療情報収集として新聞・テレビが多く、情報の信頼度に関しても高いとの結果であったが、

新聞で本冊子の情報を得ていたのはわずかに2名であった。本冊子の広報として新聞への掲載も行われてはいるが単発掲載であり、多くの人の目に止まるには至っていない現状が判った。特集記事として連載で本冊子の情報を発信する等を検討する必要がある。地域広報誌への掲載も有用ではないかを思われたが、認識した者は1名のみであった。自由意見で病院に於ける講演を提唱する意見があり、今後は地域の行政とも連携してがん情報に関する医療講演会を開催するのも一計と思われた。

内容に関しては高評価を得ており、本冊子を利用したいとの意見が大半であったことは、多くの国民はがん情報を得たいと考えていることを表していると思われた。さらに身内にがん患者が有り・無しの群別解析の結果で無し群で本冊子に対する期待度が高い傾向にあったことは自身・近親者にがん患者が出来る以前からがんに対する知識を習得しておきたいという気持ちの表れと理解できる。学校教育に医学教育を組み入れたらよいのではないかとの提言があり、がん予防としての生活習慣を学ぶことはがん発生率を減少させる点でも有意義な取り組みなると思われる。

情報収集手段ならびに信頼の置ける情報としてテレビ・新聞の割合が身内にがん患者さんを有する群で高くなっていたが、がんを経験することで日頃目にする報道の中でもがん情報に気をつけて報道を見聞きしている姿勢が見て取れる。また、身内にがん患者を有する群では情報の量をこれまで以上に収集したいと考える傾向にあることもアンケート結果から読み取ることが出来、本冊子では不十分と考える者も多くなっている。本冊子は自立支援型がん情報の普及を目指して、がんになった時の最初の入門編のような位置づけであり、その点では十分その役割を果たしていると思われた。

がんになって1〜2か月後にあまり利用しな



いであろうという項目でがん相談支援センターに関する項目が、身内にがん患者を有する群で多項目と比較し少ないながら高い割合であった。既に医療者と良好な関係が構築されており、相談することもなくなっているのかもしれないが、相談支援センターの役割が十分に理解されていない可能性もあり、支援センターのさらなる広報も必要と考える。

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

#### E. 結論

地域住民に対するアンケート調査から「患者必携」ががん患者・家族だけでなく、広く活用される冊子であることが判明した。この冊子をいかに広げていくかが大きな課題である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1, 論文発表

- 1) 藤原隆行、朝戸裕二、清嶋護之、佐藤始広、飯嶋達生、雨宮隆太. 原発性肺癌に併発した多発性後縦隔骨髄脂肪腫の 1 例. 肺癌 2011;51(3):207-211
- 2) 雨宮隆太、清嶋護之、鏑木孝之、朝戸裕二. 所見のとらえ方と気管支鏡診断. 気管支学 2011;33(4):284-289

##### 2, 学会発表

- 1) Yuji Asato, Moriyuki Kiyoshima, Motohiro Sato, Tatsuo Iijima, Ryuta Amemiya: Limited Resection for Lung Cancer Which Showed Gland Glass Appearance in Pre-operative HRCT. 14th World Conference on Lung Cancer. 2011.7.4. Amsterdam

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

図1, 回答者背景

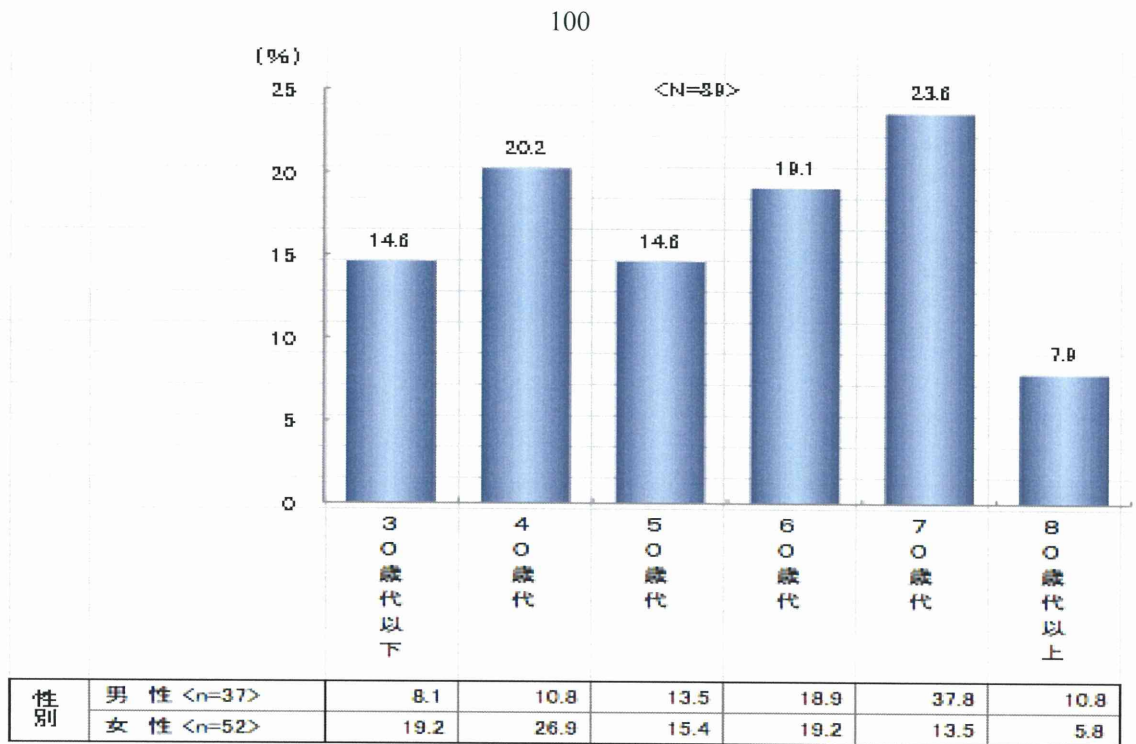


図2, がん患者との関連について

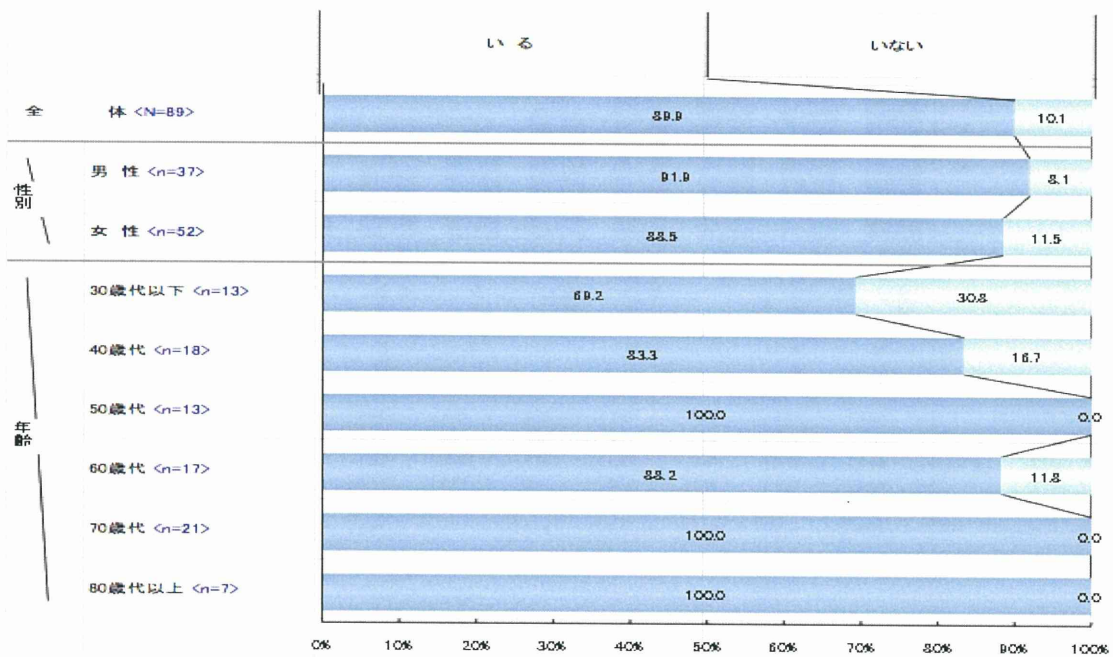


図3、健康に関する情報源

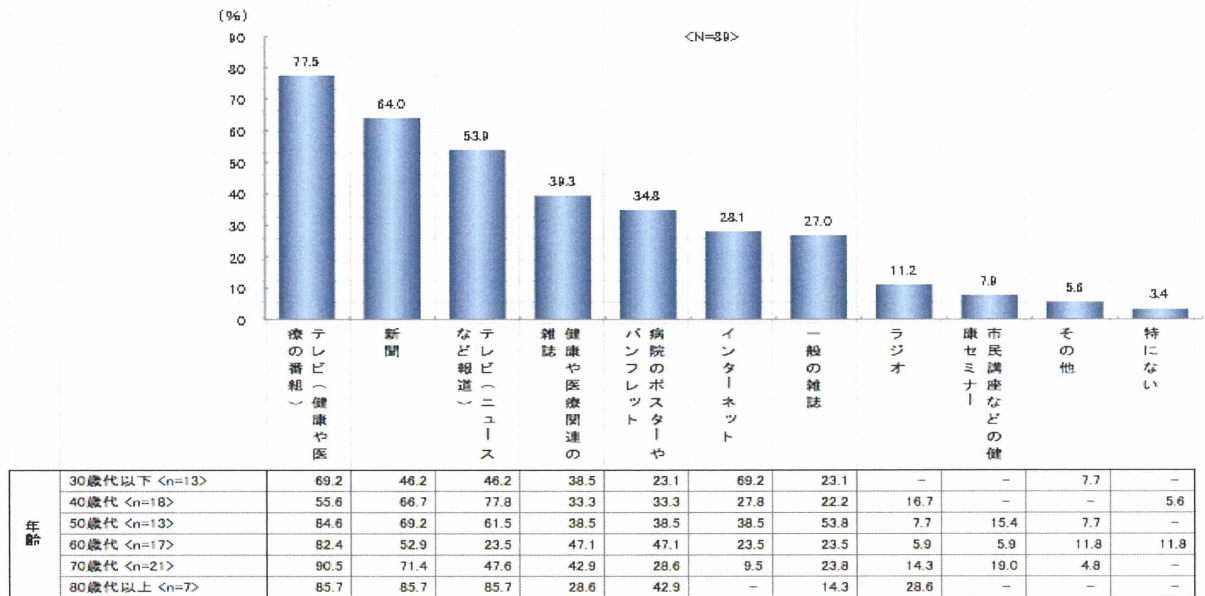


図4、情報源の信頼度

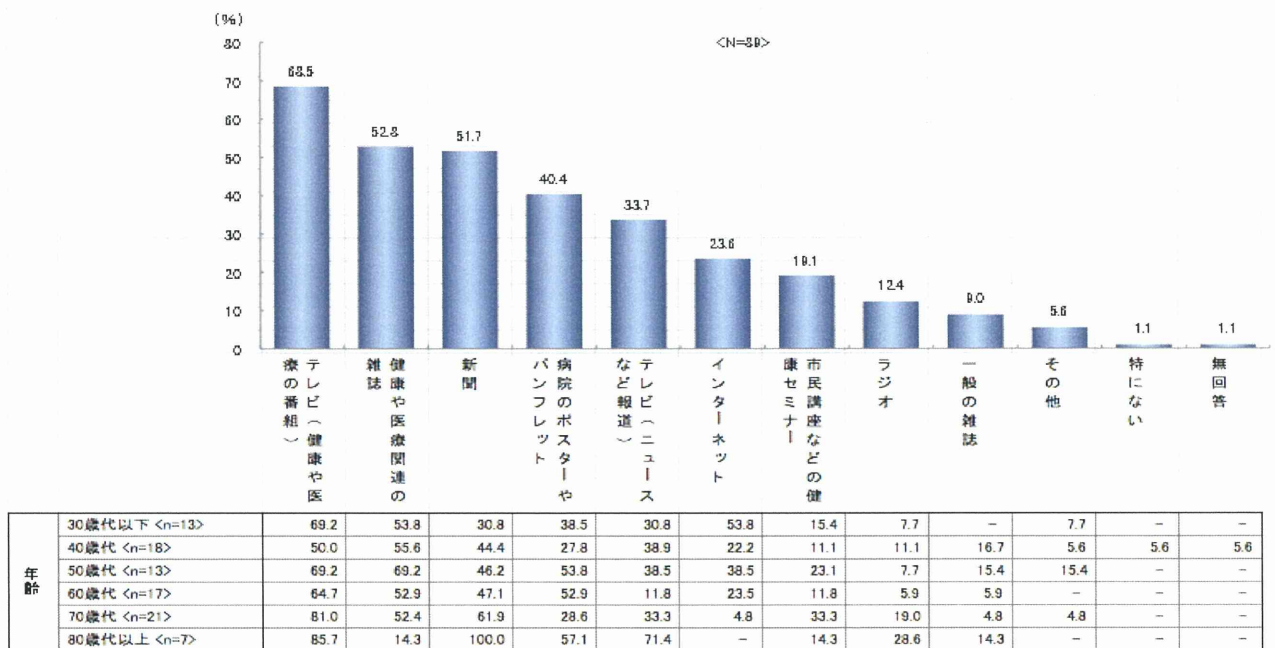


図5, インターネット環境

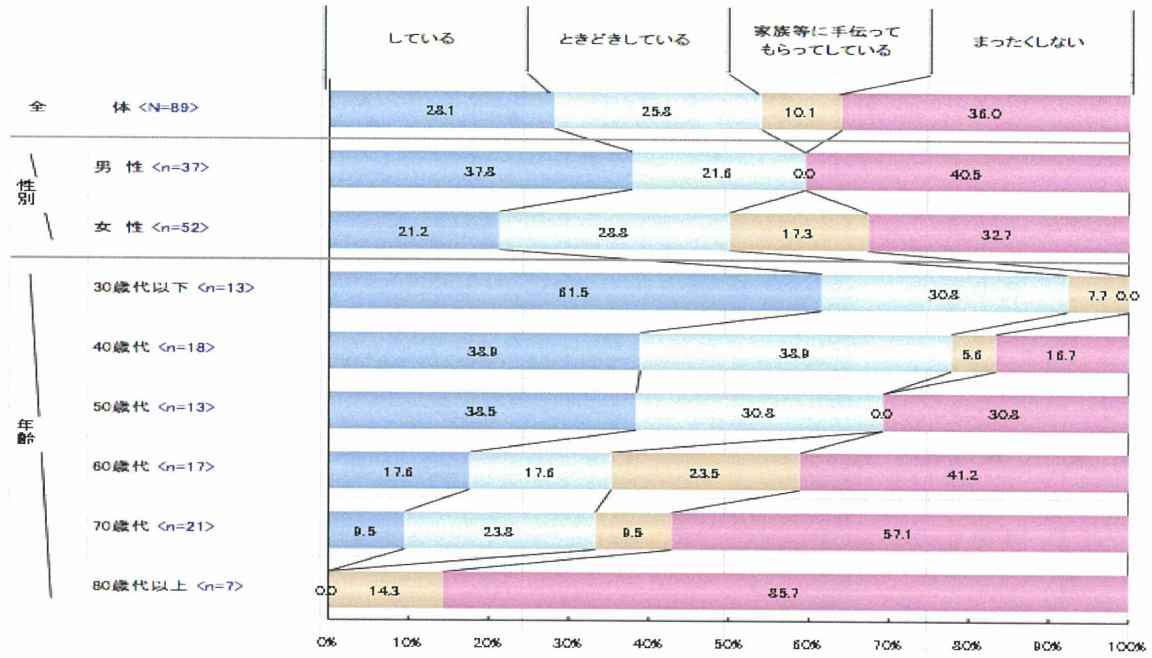


図6, 「患者必携」の周知状況

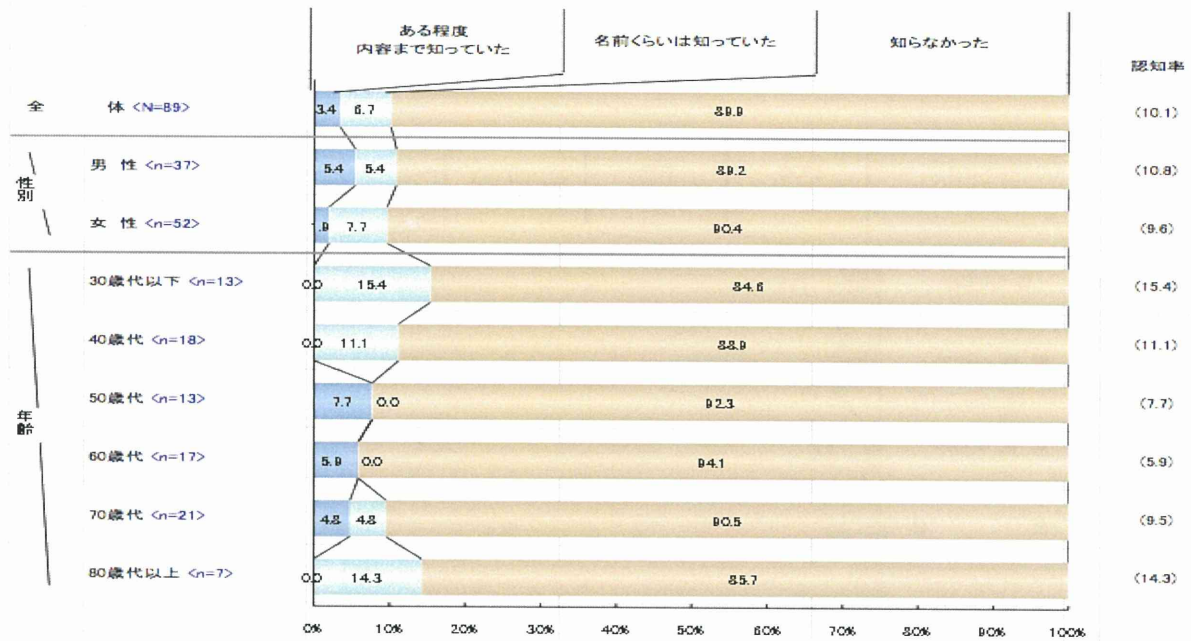




図7、「患者必携」の活用度について

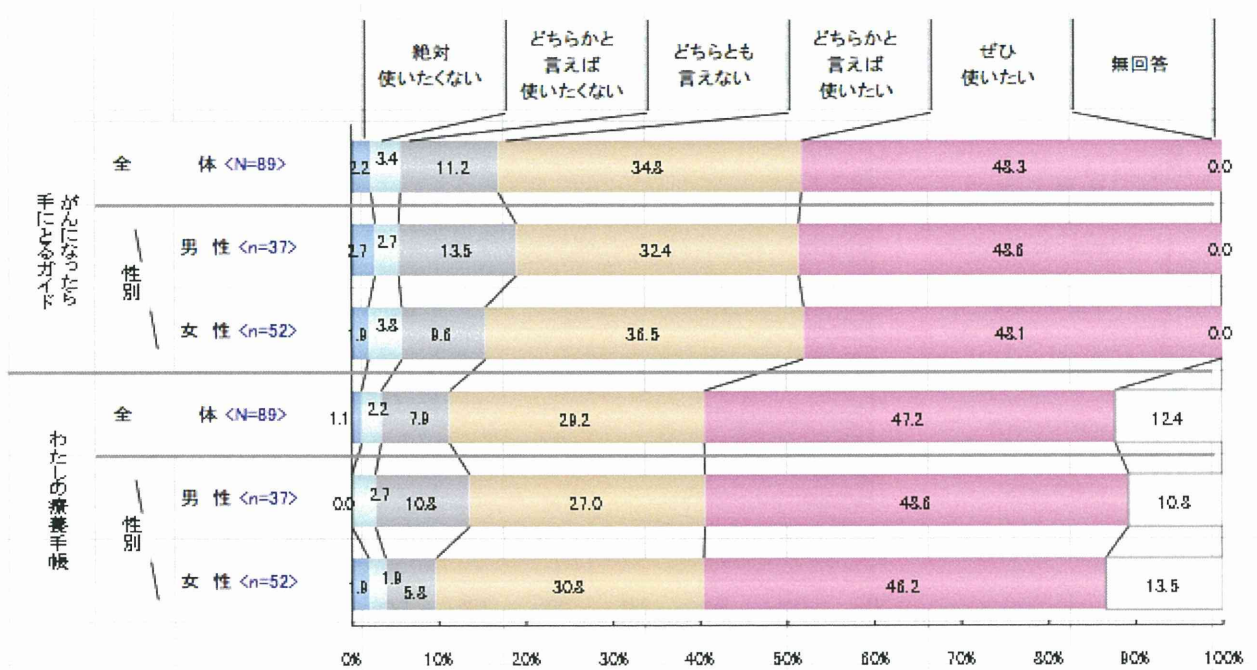


図8、「ガイド」の内容について

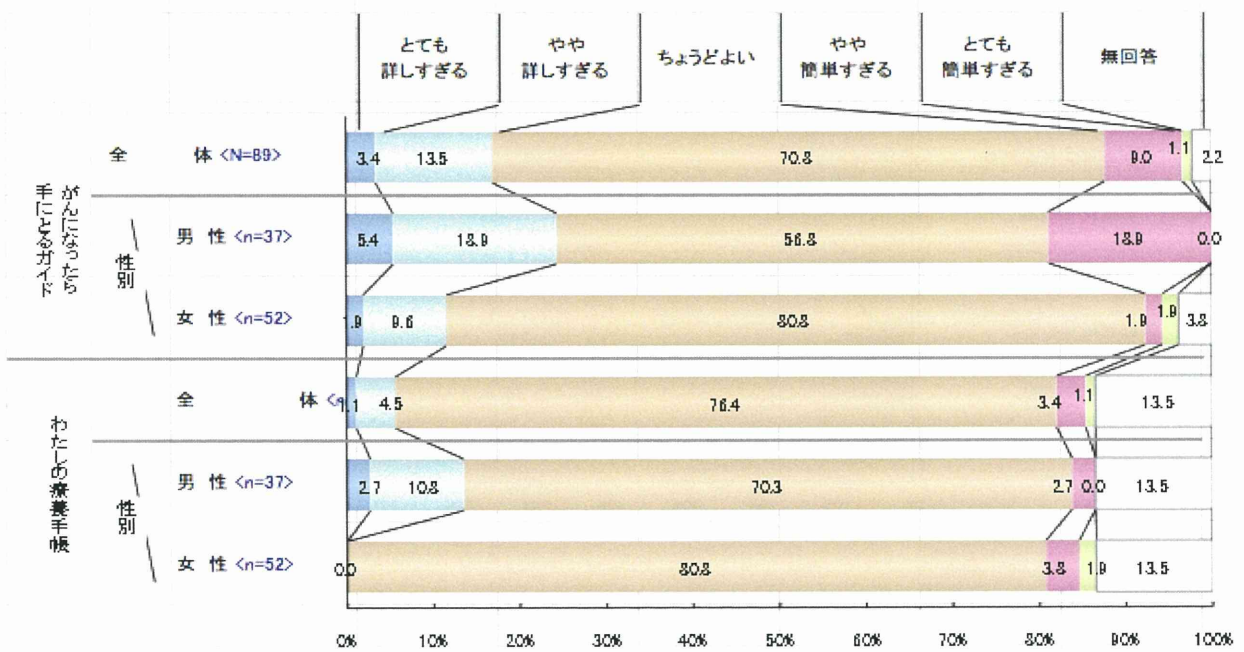


図9、「患者必携」の評価

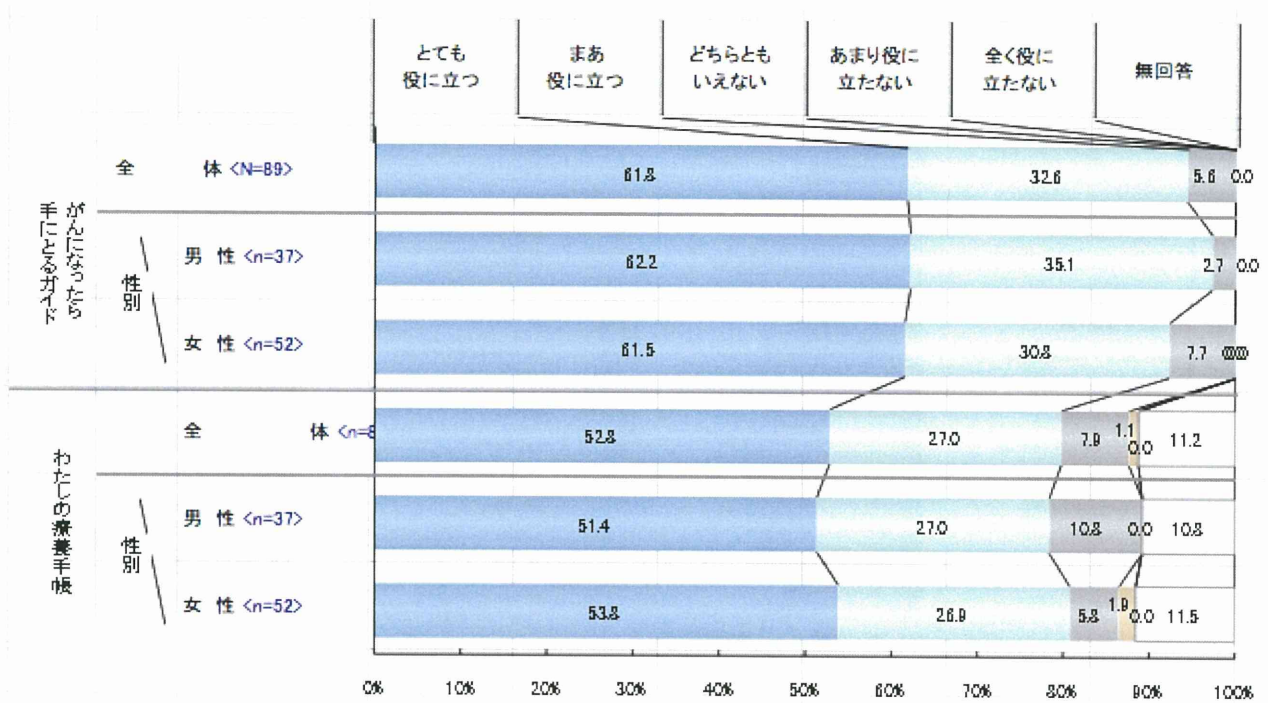


図10、がん患者としてガイドを読んだ1〜2ヶ月後に活用していると思われる項目

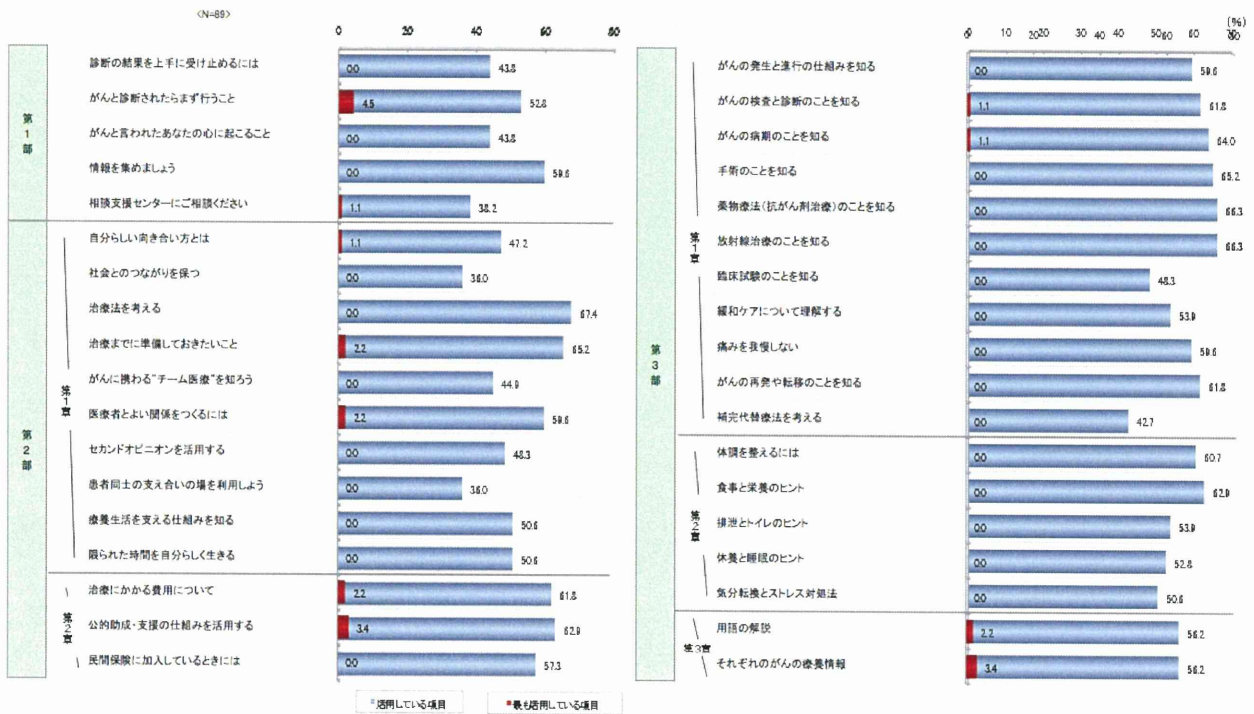


図 1 1, 不安解消に役立つと思われた項目

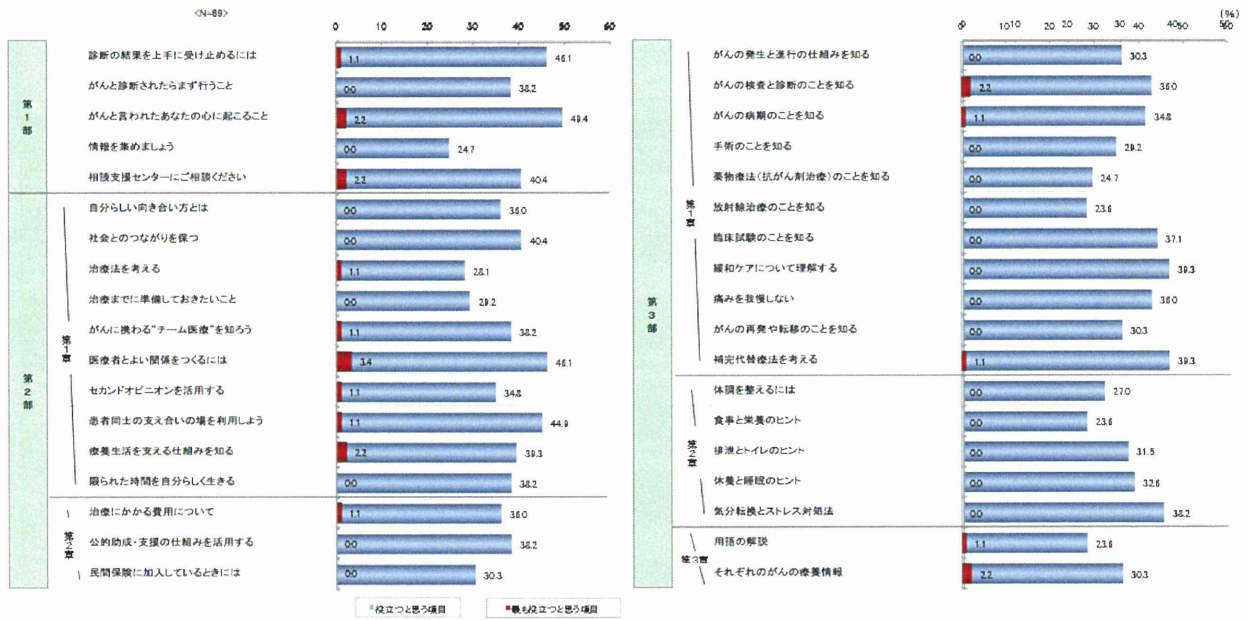


図 1 2, まったく使わないだろうと思われる項目

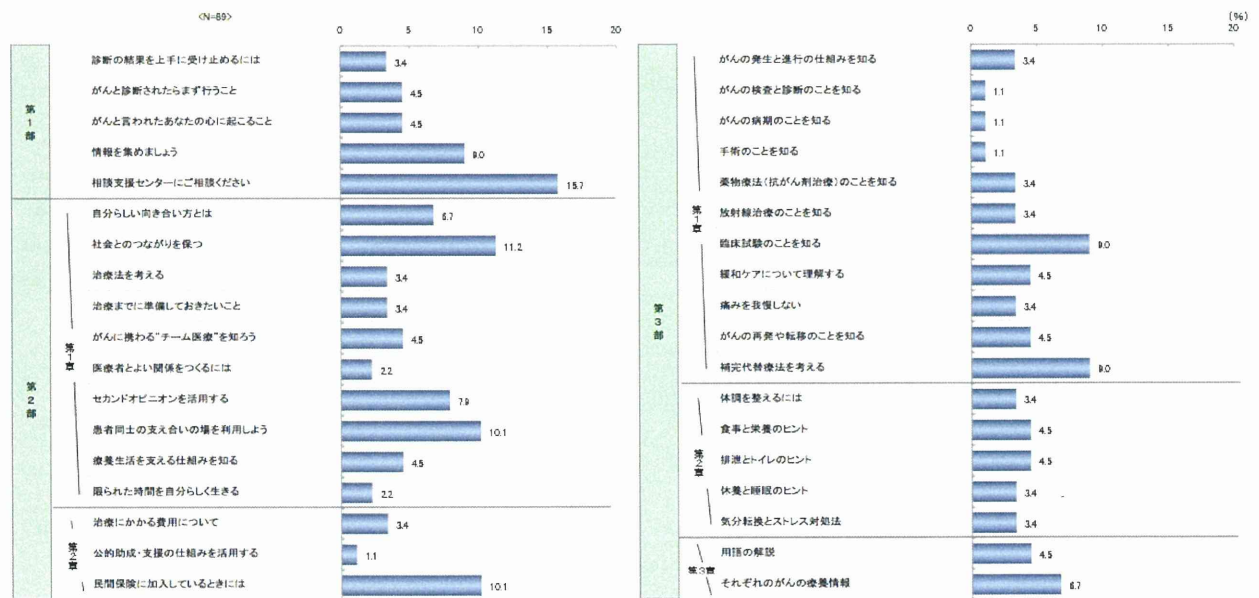




図13, 参考にしている健康に関する情報

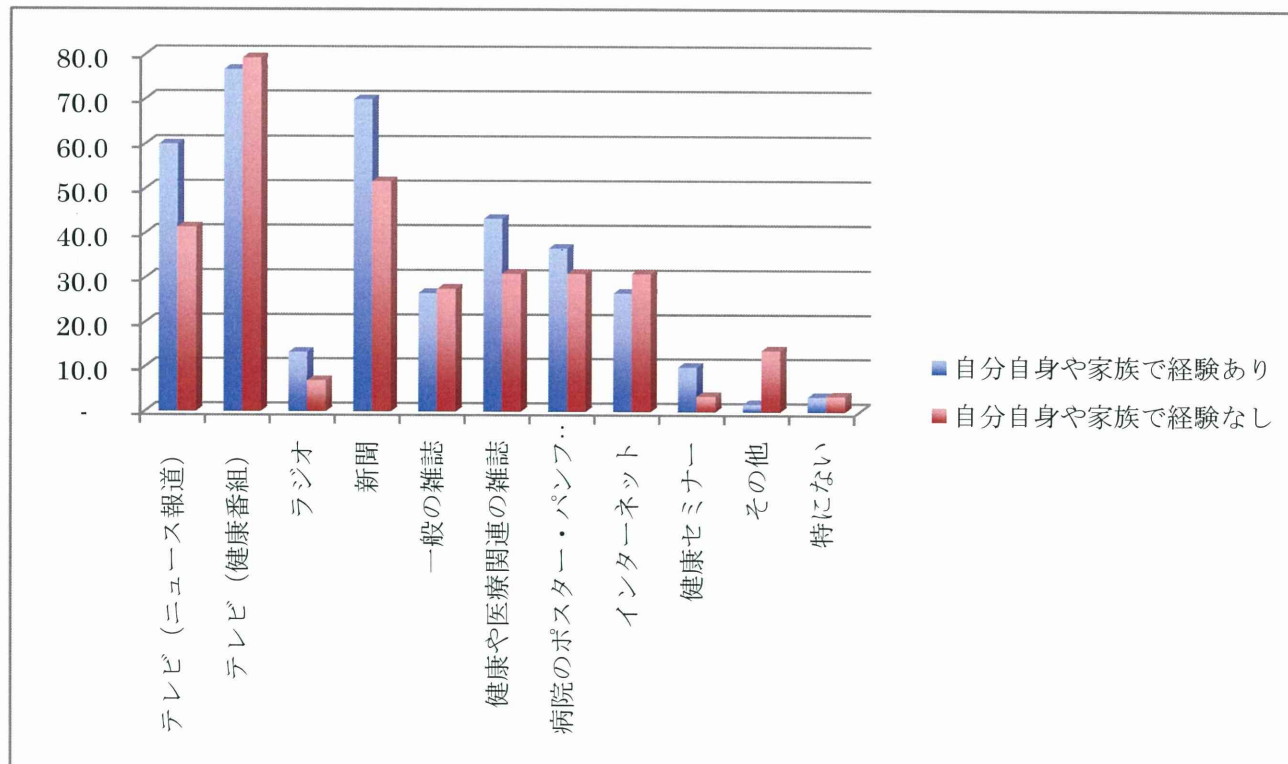


図14, 情報の信頼度

